

パブリックコメント第50号常陸大宮市立地適正化計画(案)に対する意見募集の結果について

1. 意見募集の実施状況

- (1) 意見の募集期間 : 令和2年8月11日(火)～令和2年9月9日(水)
- (2) 意見の提出件数 : 4件
- (3) 意見の提出方法 : 持参3件 郵送1件

2. 意見の内容及び意見に対する市の考え方

No.	意見のタイトル	意見の内容(原文)	意見に対する市の考え方
1	鶏が先か、卵が先か ----田舎あつての都市機能発揮	計画(案)拝読いたしました。多大な資料、調査御苦労さまです。 都市は田舎あつての都市であり、都市だけの都市は崩壊必然です。そこで何か重点的な田舎都市的な施策を打ち出してはどうでしょう。例えば、マスコミ報道によれば市内に近くオープンするという「有機農場」を核として、その志願者を実習生、体験者として、そこで心身習得し、市内各地の空き農地に永住できる手助けをしていく。つまり農林関係、安心安全な食のまち(市)づくりをアピールしていく。その人達や田舎が徐々に活気づけば、市内中心部も活気づくと思う。合理的、経済的に人造された大都市に生き物(ヒト)として、嫌悪感を持つ人が多くなっている。「積木の家」の如く、これもこれも必要と欲張ると壊れる。地道、泥臭さ、そして無駄があつてこそ人は生きられる。「二兎を追うもの一兎も得ず」という。 ※産業(農林)施策と同時施行が期待されます。(了)	ご指摘のとおり、本市は豊かな森と清流に恵まれた田園環境を形成しており、「田舎あつての都市」という面も持っています。一方市の中心部には、水戸市を中心とする都市圏への交通利便性が確保されているという強みもあり、中心部には中心部の、郊外部には郊外部の魅力を引き出すため、それぞれふさわしい施策を講じる必要があります。 今回策定する立地適正化計画は、居住や都市機能の誘導、公共交通の充実による「コンパクト+ネットワーク」の形成により、持続可能な都市を目指すものであり、特に市の中心部の在り方を定めるものです。 郊外部を含めた常陸大宮市全体の計画は令和2年3月に改訂した「都市計画マスタープラン」で示しておりますので、今後、郊外部については、「都市計画マスタープラン」に基づいた施策を実施してまいります。

No.	意見のタイトル	意見の内容(原文)	意見に対する市の考え方
2	P16常陸大宮市の現況について (1) 令和22年に人口3万人以下になる見込みとの記載少し甘過ぎないでしょうか (2) 老人人口比率2015年33%であるが、現在既に39%以上になっています	(1) 人口について、上記の見通しを立てていますが、平成31年既に4万人の大台を割っており、このペースが続けば、令和22年を待たずして10年頃3万人の大台を割るものと思われる、市の見通しは余りにも甘すぎる感が致します。 (2) 老人人口比率は2015年で30%であるが、現在ではすでに39%台となっており、市の財政負担は一層厳しいものになるはずですが、では人口減少に最大の理由は？若い世代がどんどん大宮市から出てしまうため、例を挙げると、共働きしようにも、子供を安心して預ける場所がなく、結局は水戸市内に住を移し、主人は車で大宮の職場に通うとの生活体制が大きく作用しているからです。 その対応は、P7まちづくりの課題③に記載の大宮駅前開発で安心して子どもを預かる場所ができれば、かなりの人が大宮から離れずに済み、これが人口大幅減少解決の一手段につき早急な対応を望みたいと思います。	(1) 将来人口推計について 市全体の将来人口は、「国立社会保障・人口問題研究所」が平成30年に公表している推計値を参照しております。 今後の状況によっては推計値が修正される可能性もありますので、引き続き、市の人口動向と人口推計の状況を確認してまいります。 (2) 常陸大宮駅周辺整備について 常陸大宮駅周辺整備については平成29年3月に「常陸大宮駅周辺整備基本計画」令和2年3月に「常陸大宮駅周辺整備計画」を策定し、『魅力と活気あふれる快適なまちづくり』～ひとが集い、まちが輝く駅周辺整備を目指して～という将来像を目指して検討を進めております。 今後も進捗状況を地域の皆様にお知らせしながら計画を推進してまいります。

No.	意見のタイトル	意見の内容(原文)	意見に対する市の考え方
3	常陸大宮市に物語をつくろう「常陸大宮市に生きる喜び、そして幸せ」	都市計画を実行するためには市民の理解と協力が不可欠、そのためには単なる損得を超えて、市民の心(感情)を1つにし、突き動かす「物語」が必要だと思います。それも、過去から現在、未来にわたって紡がれていく物語、市民の心に根付き、誇りとなり、希望となり、生きる喜びと力を与えてくれる物語が必要です。 また、全ての計画は有機的につながっていることが重要ですが、単なる数字と期限、もっともらしいお題目だけでは、そのつながりを市民が理解することはできません。この都市計画によって実現する未来が、まるで映画を思い出すかのように具体的に思い描けないと、せっかくの計画も意味のない自己満足で終わってしまうかもしれません。 そうならないためにも、まず常陸大宮市の歴史を徹底的に調べ、それこそ旧石器時代から現在に至るまでを辿ると、常陸大宮市の大きな物語が見えてきます。そして、いま現在の常陸大宮市にある様々な魅力を洗い出し、そこから「常陸大宮市に生きる喜びと幸せ」が詰まった物語を作ることができれば、市民の心にもきっと届きます。私たち市民は皆、その物語の登場人物として常陸大宮市で生き、未来に向けて子供たちに引き継いでいくのです。 また、そうやって作った物語を広く市外に発信することで、常陸大宮市に多くの心豊かな移住者を増やしていき、こんどは常陸大宮市が日本や世界の未来に対して何ができるのかを考え、実行していく。 そんな未来が描ける都市計画の実施を、心から望んでいます。	常陸大宮市の物語が必要であるとのご意見については、「ひたちおおみや未来総合ビジョン」(常陸大宮市総合計画 基本方針)の「まちづくりの基本理念」[1 郷育立市の考え]の中に「故郷を「伝える」・「つなぐ」・「つくる」]という項目があります。 ここには、私たちは、先人たちの力が作り上げた、この故郷の自然や歴史、文化、数々の英知、地域の絆など、かけがえのない財産をつないで生きています。このつながりを大切に、かけがえのない財産をさらに磨き上げ、新たな故郷を創り上げるとともに、故郷を愛し、慈しんだ先人たちの心や行動を、次の世代、そして未来へと伝えていくことが大切です。この郷育立市の考えを、市民をはじめとする多様な主体と共有していくこととしており、今後とも、この基本理念に基づき、各種計画を策定してまいります。 本計画におきましても、常陸大宮市における過去と現在の状況から、常陸大宮駅周辺に都市機能誘導区域及び居住誘導区域を定め、将来に渡って持続可能な都市を目指して計画の策定を進めております。 計画策定後は、「暮らし」と「にぎわい」の核となる市民・市外来訪者(みんな)のための都市中心拠点づくり」というまちづくりの方針を目指して各施策に取り組んでまいります。

No.	意見のタイトル	意見の内容(原文)	意見に対する市の考え方
4	SNSの発信効果が薄いと思われるので、全SNSを一括してプロデュースすべき	都市計画についての広報だけでなく、そもそも常陸大宮市のSNSでの発信は現状かなり効果が薄いと思います。全SNSを一括してプロデュースし、発信する必要を強く感じます。 具体的には、現状だとSNSごとに発信する内容も頻度もバラバラで、連携が取れていません。そのため、SNSの種類によって、市民が受け取れる情報に格差が生じてしまい、広く報せるという本来の目的が達成できない状況です。 もちろん、各SNSの特性に応じた発信方法や発信頻度はありますが、せめて発信内容だけでも、統一したほうがいいと思います。 また、SNSを情報発信ツールと捉えているとしたらそれは誤りで、エンターテインメントとして捉えたほうがいいです。市民にとって日常のエンターテインメントとしてSNSを捉えると、伝えたい情報の拡散範囲やスピードは飛躍的に高まります。 以上、SNSの運用方針について早急な検討を希望します。	SNSの活用については、「ひたちおおみや未来創造アクションプラン」(常陸大宮市総合計画 基本計画)の「大綱3 自然と調和した快適で安全なまち」の中の「施策5 ICT(情報通信技術)活用の推進」「1タイムリーな情報の提供・交換の推進」の中で、公式ホームページ等やSNSの充実を図り、市民と行政を結ぶ情報の共有化を推進するとともに、いつでもどこでも情報提供が受けられる仕組みづくりを進めることとしております。 本市の情報については、SNSの特性及び情報の内容に応じて発信に努めており、公式ホームページでは、市全体の情報を今後もより幅広く発信してまいります。 本計画についても、公式ホームページ等で周知してまいります。

問 本庁 都市計画課都市計画G ☎52-1111 内線252